

# 埼玉砂防

赤坂沢 母谷砂防ダム(誕生野)  
砂防ダムが砂防しているように見える。  
ユニークな風景。

赤坂沢 小塚小橋(誕生野)  
景観に調いながら、砂防事業を  
PRする木造平成3年に建てられました。

砂防碑 首野町(昭和29年)

比企郡都農川村七瀬川(大正5年)

嵐の沢(秩父市)

## 水五則

- 一、自ら活動して他を動かさむるは水なり
- 一、常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- 一、障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- 一、自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るの量あるは水なり
- 一、洋々として大洋を充し発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ露と化し凝っては玲瓏たる鏡となり而も其性を失はざるは水なり



埼玉親マスコット  
コバパンさいたまっす

お問合せ / 埼玉県治水砂防協会事務局

TEL 048-830-5125

この事業については、協賛団体の(一社)埼玉県建設業協会を通じて、「建設共済保険」を事業運営する(公財)建設業福祉共済団  
[<http://www.kyousaidan.or.jp/> TEL.03-3591-8451 FAX.03-3591-8474]のご支援をいただいています。

平成28年10月1日発行



入間郡毛野村白根 白根沢(昭和40年)

秩父郡吉田町 小川(昭和49年)

比企郡玉川村 蓮川(昭和55年)

## 西暦2016年 100年の歴史

「砂防(sabo)」とは、土砂災害防止対策等全般をさす用語で、世界の共通語になっています。今から100年前の大正5年(1916年)、埼玉最初の砂防建設事務所が秩父郡(倉世・大間)に設置され、赤平川・吉田川・都農川の3河川において砂防事業が着手されました。



秩父郡秩父市大宮下影森 神淵川(昭和22年)



比企郡都農川村宮次 都農川(大正9年)



大間工務所(大正5年-昭和58年)

彩の国  埼玉県

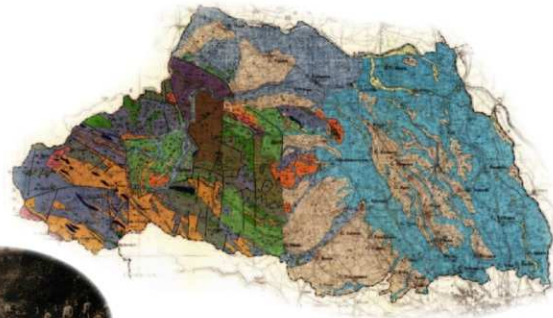
比企郡都農川村竹ノ保入倉 都農川(昭和3年)

# 埼玉県の地質と地形

## 地質の特徴

本県の山地は、古生層、中生層、変成層など極めて多様で、特に秩父古生層、長瀨系などの名称は、この地域名から命名されたもので、我が国地質学発祥の地とされています。秩父山地は、主として秩父系、長瀨系及びジュラ、白亜紀に

属する中世代の地層から成り、これに花崗岩、石英英緑岩、石英斑岩、蛇紋岩などの小規模な貫入分布を含みます。一般に成層岩類は北西―南東ないし、西北西―東南東の軸をもち、いくつかの褶曲をし、これに断層もともなっており、かなり複雑な構造を作っていますが、中でも秩父盆地は模式的なものです。



- 礫
- 砂
- 泥
- 礫岩
- 砂岩
- 泥岩(頁岩・粘板岩)
- 珪岩質砂岩
- 上部珪岩質砂岩
- 輝緑凝灰岩
- 石灰岩
- ローム
- 凝灰岩
- 花崗岩質砂岩
- 粘板岩質砂岩
- ホルンフェンス
- 緑色片岩
- 黒色片岩
- 片麻岩

出典：昭和48年発行  
経済企画庁総合開発局

## 地形の特徴

本県は、利根川または荒川の流域に属しており、西が山地、中央が丘陵地・台地、東が低地となっています。特に低地に位置する中川・綾瀬川流域は、古くは利根川や荒川の川筋を、台地に開かれたお盆の底のような地形となっており、水がたまりやすくはけにくい、いわゆる浸水リスクが高い地域です。

一方で、この地域は、高度経済成長期の急激な市街化により多くの人口が集中しており、ことたび洪水が発生すると大きな被害につながる可能性があります。また、西側の山地部には、土石流や急傾斜地の崩壊、地すべりといった土砂災害のリスクが高い箇所が集中しています。



- 山地
- 台地
- 丘陵
- 台地
- 低地

秩父郡赤松町石川 石川川  
(昭和14年~17年)



比企郡那須川科学会館 轟倉川  
(大正7年)



比企郡那須川村宮沢 轟倉川  
(大正9年)

秩父郡秩父町 轟倉川  
(昭和30~31年)

## 砂防の歴史

### 本県の砂防事業は

明治43年に小鹿野町やときが町(旧都幾川村)で発生した大規模な土砂災害が契機になっています。そのため大正5年に秩父及び大瀨砂防工務所を開設し、赤平川・吉田川・都幾川の3渓流で砂防工事に着手しました。これらの工事は以来着々と進められてきましたが、第二次世界大戦により予算は大幅に削減され、計画遂行は頓挫してしまいました。戦後は戦中の乱伐等による

水溜山地の荒廃とともに昭和22年に関東一帯を襲ったカスリーン台風により全県的に大災害を受けました。しかし、砂防事業を施工した渓流は被害が皆無に近い状態であったので、砂防事業への重要性が再認識されました。昭和22年当時5箇所であった施工箇所も現在では県内山間地を中心に、各所で砂防事業、地すべり事業及び急傾斜地崩壊対策事業が進められています。

## 埼玉県と砂防の歴史

元号	西暦	砂防のできごと	主なできごと
明治30年	1897年	「砂防法」制定	上野―熊谷間に鉄道開通(明治16年)
明治43年	1910年	台風による大規模な土砂災害(死者・行方不明者347名)	熊谷―秩父間に鉄道開通(大正3年)
大正4年	1915年	県内初の砂防指定地を指定	第一次世界大戦開戦(大正3年)
大正5年	1916年	秩父・大瀨砂防工務所開設(3渓流で砂防工事に着手)	関東大震災(大正12年)
昭和13年	1938年	台風により吉田川支川に土砂災害(死者74名)	地盤一帯閉間に鉄道開通(大正14年)
昭和22年	1947年	カスリーン台風来襲。横瀬川支川で土石流発生(死者7名)	越生―小川町間に鉄道開通(昭和9年)
昭和24年	1949年	利根川水系の砂防工事に着手	太平洋戦争開戦(昭和16年)
昭和33年	1958年	埼玉県治水砂防協会の設立/狩野川台風来襲	東京オリンピック開催(昭和39年)
昭和34年	1959年	伊勢湾台風来襲(死者8名)	埼玉県人口30万人を超える(昭和41年)
昭和57年	1982年	秩父・大瀨砂防事務所廃止	埼玉国際博覧会(昭和42年)
昭和58年	1983年	5事務所(熊谷・東松山・秩父・本庄・熊谷)に治水砂防課設置	吾野―西秩父間に鉄道開通(昭和44年)
平成8年	1996年	砂防法100年を記念し、七重川(ときが町)と昭和(小瀨町)に、埼玉県治水砂防協会の記念碑を建立	埼玉県人口500万人を超える(昭和53年)
平成10年	1998年	彰の国砂防ボランティア協会設立	正丸トンネル供用開始(昭和57年)
平成19年	2007年	七重川砂防堤堰が土木学会選奨土木遺産に認定	さいたま博覧会開催(昭和63年)
			埼玉県人口70万人を超える(平成15年)
			埼玉国際博覧会(平成16年)

(砂防の歴史 監修：熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹)



### 初期の砂防事業

明治43年(1910年)の台風により山地崩壊2,870箇所、死者・行方不明者347人の土砂災害が発生しました。特に被害が大きかった赤平川・吉田川・都幾川の3渓流で、大正5年から砂防事業に着手しました。(写真はときが町・都幾川支川七重川)



### にょく 二九沢の土砂災害

昭和22年(1947年)9月のカスリーン台風により発生した二九沢(正式名称は横石沢)で発生した土砂災害で死者7名、人家7戸埋没の被害がありました。この災害により砂防事業への気運が再び高まりました。  
「二九沢」と言う名は、住民が当時の被害を忘れないため、発生年月を連符の沢名としたものだそうです。(砂防指定地名は横石沢)